

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

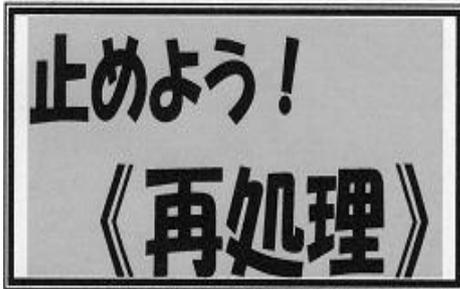
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

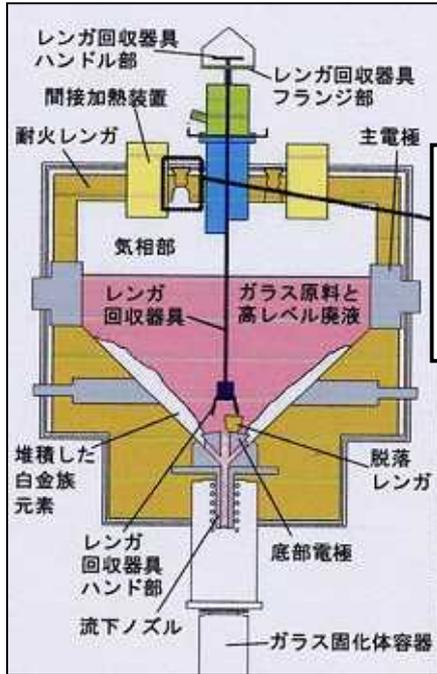
2010(平成22)年
6月7日
第85号

編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

レンガ回収絶望的 ガラス溶融炉修復作業

日本原燃は三月二十四日、原子力安全 保安院にガラス溶融炉の一部損傷経過報告書(その2)を提出し、停止中のガラス溶融炉に熱入れ、一年三月ぶりの四月三日からはく落したレンガの回収作業に入りました。しかし、作業は困難を極め、定期点検とも重なって、四月二日には中断し、五月一五日に回収作業を再開しました。五月二六日、一五回目の回収作業がなされ、炉底中央部から黒い物体が回収されたこと発表しましたが、三時間後には物体は回収されていなかったと訂正しました。

ガラス溶融炉断面図



レンガ剥落部分

『美浜の会』
ホームページより

修復、見通し立たず
天井レンガがはく落したのは一昨年一二月でした。が本年三月にやつと熱上げし、溶融炉頂上部から差し込んだ『レンガ回収器具』を用いて作業を行い

ました。しかし高温かつ強力な放射線の中での遠隔操作による作業で、カメラを入れることもならず、手探り状態で試みられました。レンガをつかむことが出来ないまま回収器具一基を既に更新し

他のレンガにも亀裂
『報告書』には天井部分の耐火レンガの熱応力解析の結果が記されています。それによると、さらに三箇所レンガがはく落する可能性があると言われています。加熱と冷却を繰り返す度に溶融炉自体の損傷が心配され、これ以上の操作は中止されるべき状況です。

新たに一基作製中です。
放射線アラーム発報
この間四月二〇日ガラス固化建屋で圧力高アラームが発報しました。セル内の空気の負圧が保持されず、放射能を帯びた空気が隣室に流れた可能性があり、従業員の被ばくが心配されます。

川田龍平参議院議員提出 『質問主意書』・『政府答弁書』の分析。その1

六ヶ所再処理工場には高レベル放射性廃液が約二四〇立方メートル蓄積しており、万一大地震などで環境に漏れ出した場合、深刻な地球規模の放射能汚染が危惧されます。川田龍平参議院議員はこの問題について二回にわたり、『質問主意書』を提出し、『政府答弁書』を受け取りました。一回目は昨年一月一〇日に提出し二〇日に答弁書を受領、二回目の再質問は本年四月二〇日に提出し三〇日に受領しました。全ての国民の安全に関わるこの問題は党派を超えた課題です。『政府答弁書』からは核燃再処理政策の安全軽視の実態が浮かび上がりました。主な内容を分析し連載します。
*参議院ホームページ・会議録の閲覧
質問主意書 第一七二国会・提出26号
質問主意書 第一七四国会・提出60号

確立した技術「やまえる」かな?

ガラス溶融炉を、誰が認証したのか

【川田議員質問主意書】
トランプル続きのガラス溶融炉について一昨年の下田敦子参議院議員の質問主意書への政府答弁書には、「ガラス固化技術は外部専門家により技術の成立性が実証された核燃サイクル開発機構が開発した技術であるが、従業員の設備操作の習熟問題や設備の不具合から試運

転に時間を要している。問題点は解決を図れる」とある。しかし今日、未だトランプル解決の見通しが立っていない。ガラス固化技術は未確立の技術ではないのか。
【政府答弁書】
下田敦子議員への答弁書の通りである。
【川田議員再質問書】
六ヶ所工場に先立つ茨城県『東海TVF1号溶融炉』は五〇〇日で電極が浸食され、ガラス固化体を一三〇本製造し

たところまで廃炉となった。
『六ヶ所K溶融炉』はモックアップ(実物大模型)試験も終了しないまま設置された。確立した技術とは言えなかったのではない

【政府再答弁書】

外部専門家により技術の成立性が実証されたとした根拠は、『核燃料サイクル機構(当時)廃棄物処理処分課題評価委員会(石博頭吉委員長・委員一人)』のまとめた報告書による。『原子力研究開発機構』のホームページに公開している。

《岩手の会・見解》

『再処理見直し』を出した経緯が不明

技術的に未確立であったガラス溶融炉を採用・設置したのは、政府内の審議会や政策担当者であったはずであり、その判断に至った経緯を明らかにしなければなりません。また、事業主体の『核燃料サイクル機構』内の評価委員会は『外部専門家』の評価と言えるのか疑問です。しかも、同委員会の『報告書』を詳細に読んでみると、白金族堆積問題は未

環境基本法の放射能規制の不備を正そう



豊かな三陸の海を守る会総会

運動の輪広がっている

田村会長は、三陸の海の自然と安全安心な食料を守る私達の活動は、三陸の住民の共感を呼び運動の輪が大きく広がっている。放射能を海に捨てさせないための法整備の運動にも関係者の理解が進み協力の態勢が次第に整ってきている」と挨拶しました。地域で学習会や語る会

菅野和夫事務局長から経過報告がなされました。

放射能海洋放出規制法(仮称)の制定を求め

る市町村議会請願は昨年六月に金ヶ崎町議会が採択し、残るは釜石市と盛岡市の二議会のみとなった。両市議会には再請願を行い前回に比べ私達の主張への理解が徐々に浸透しているのを感じている。

各地区で学習会や映画会、講演会、国会議員と語る会を実施した。環境基本法の改正を求めて署名活動

本年度事業提案では地元国会議員と語る会の中で、「法整備は国会の仕事である」という視点が大切と気づかされた。私達の求める「放射能海洋放出規制法(仮称)」の運動には、環境基本法第一二条に「放射性物質については原子

力基本法その他の関係法律で定めるところによる」とされ、放射能による環境汚染防止が明記されていないことが前進を阻んでいる要因の一つである。

正を求めて署名活動を全国展開し、選出区の国会議員に提出する。六ヶ所再処理工場の放射能廃液を海に放出させないよう求め、講演会や地域学習会の開催などが確認されました。

宮古市議会議員選挙

豊かな三陸の海を守る会 六人全員当選

宮古市議会議員選挙は四月二五日投票され開票の結果、豊かな三陸の海を守る会 会員が六人全員当選しました。

川井村との合併後初の選挙で定員二十八名に三十一人が立候補しました。同海を守る会からは現職五人、新人一人が立候補しましたが、会としては自主投票とし、各地区立候

補者に、再処理工場からの放射能汚染問題を提起し理解と協力を訴えました。田村会長は山田町議会議員の経験を生かし、激励、応援弁士に奔走しました。当選した六人の会員は自民党系二人、民主党系一人、共産党二人、新人無所属一人です。特に新人の女性議員は再処理ストップ全国署名提出で国会請願を行った際、「唯

『再処理見直し』を！

「岩手の会」が各政党へ要請書

『岩手の会』は、各政党宛、参議院議員選挙のマニフェストに『再処理見直し』を記載するよう要請書を五月二二日に郵送しました。

要請事項

事故続きで見通しの立たない六ヶ所再処理工場

を無理に操業させれば多大な税金・公共料金の無駄づかいとなるのは必ずであり見直すべきこと。

唯一の被爆国である日本こそ、核不拡散政策を積極的に推進し核廃絶への潮流を作る先頭に立つ

べきこと。そのために「再処理をやめ」「プルトニウムの生産・保有をやめる」ことの世界に与える影響は計り知れない。

原子力政策審議委員の民主的で公正な選出(全文はHP『岩手の環境』/RI廃棄物』に掲載)

の主婦では声を聞いてもらえないと痛感し急遽立候補を決意し、『六ヶ所再処理問題』の県内外の仲間も駆けつけ草の根運動を展開し当選しました。『当選後加入』の四人の議員を加え、会員十人の得た得票は全体の三四%にあたります。

三陸の海を放射能から守るための意義深い選挙結果となりました。(R)